

↓残された問題点の整理 ↓外部講師による説明、というプロセスが効果を高めたと考えられる。

⑤ 第七時の授業の概要

本時は、「社会的思考・判断」を直接的に促す時間(②①ウ参照)である。共通課題確認後、三つの「どのように」型の課題を調べた結果から、「新聞が一日でできる理由」に該当すると思われるものを挙げさせた。児童は「警察からの事故の連絡」「立派な機械」「配達する人」などを挙げたので、それらがそろえば一日でできるかとなげかけた。その結果、活発な話し合いを通して、高い技術や経験、それぞれの協力、やる気や努

力、気配りなどの必要性が順次確認されていったので、最後に共通課題に対する小単元のまとめを書かせて終了した。(協力解決)

(4) 第二小単元の授業の概要  
第二小単元は、図4の課題構成をもとに、ダイベートや聞き取り調査等の活動を取り入れた。(省略)

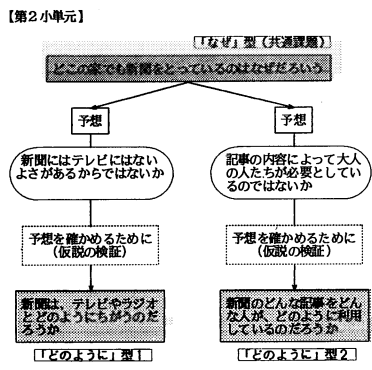


図 4

五 研究の成果と今後の課題

(1) 授業の様子や児童の評価から  
授業中の児童の様子や発表内容、各カードへの記入状況や小単元のまとめ、自己評価カードの記入結果などから判断して、導入した体験や活動及びそれらを位置付けた単元構成は、思考力・判断力・表現力の育成と社会認識の獲得とに有効に機能したと思われる。また、導入した体験や活

動に対する好感度を五件法でたずねたところ、すべての体験や活動の平均が四・〇を上まわった。この点からも本仮説の方法論としての有効性が一定程度認められると思われる。

(2) 「精選の仕方(工夫)」について  
本研究の目的の一つは効果的な精選のプロセスの構築を試みることであった。実際に行ったことを整理すると、図5に示すように、①導入可能な体験や活動の列挙、②論理的精選、③内容的精選、④形態的精選の順番で進められた。そこで、個人差への対応の仕方と併せて、性差も精選のプロ

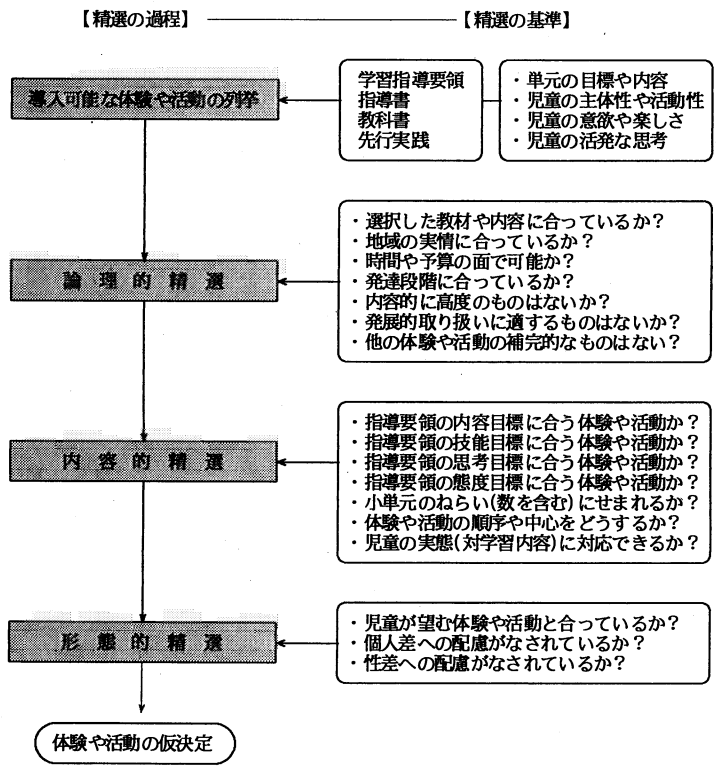


図 5